スギカミキリ防除のためのバンドの施用法と注意点

１　はじめに

バンド法は樹幹にバンドを巻くだけの簡単な防除法です。ただし、いくつかの注意点があり、それを守らないと効果が低下します。本報告では粘着剤を塗布したバンド（以下粘着バンドという）の施用にあたっての注意点をお知らせします。

２　防除実施林分、立木の選定

被害の発生は10年生位の林齢から始まり、30年生位にピークを迎えます（林業技術情報No14）。一度樹幹に形成された被害は消えないので、被害発生ピーク後の防除はあまり意味がありません。被害発生初期から防除する必要があります。周辺の被害状況に普段から注意し、場合によってはモニタリングを実施するなどして防除の時期を逸しないよう注意してください。基本的には全立木にバンドを巻きます。カミキリの存在する立木にだけバンドを巻くことができれば効率的ですが、その見極めは困難です。やむを得ず選択的に巻く場合は事前に被害調査を行い、被害木全てに巻いてください（スギカミキリは一度被害の発生したスギで再度発生する傾向があるため）。

３　バンドの巻き方

表-1と写真-1を参考にバンドを巻いてください。

表-1　バンドの巻き方

バンドの巻き方
①　ソメイヨシノの開花前に作業を予定する。 スギカミキリの脱出前に巻く必要があります。カミキリの脱出時期はソメイヨシノの開花時期から予測されます（林業技術情報No15）。
②　バンド、ゴミ袋、固定用クリップもしくはガムテープを用意する。
③　バンドに折り目をいれる。 バンドには折り目をつけるためのすじがはいっています。
④　粘着剤を覆っている剥離紙をはがす。
⑤　粘着剤の面を樹皮側にし、樹皮との間に適度な隙間ができるようにして、胸高部に巻く。 バンドの折り目と樹幹の間に適度（数mm～1cm程度）な隙間ができるよう巻きます。きつく巻きすぎるとカミキリが入り込めませんし、ゆるすぎるとカミキリが粘着剤に触れることなく逃げてしまいます。
⑥　粘着面で重ね合わせ、付属のクリップもしくはガムテープで固定する。 粘着剤は強力なので、のりしろ部分が接着されたように感じられますが、時間がたつと必ずはがれ落ちます。

４　補足

粘着バンドは胸高直径が15cm程度までの立木に巻くよう設計されていますが、南の県とは異なり、岩手ではより太い立木でも被害が多いようです。胸高直径の太い立木に巻く場合はバンドをつなぎあわせて巻く必要があります。この場合もつなぎあわせた部分はクリップで固定する必要があります。また、2枚をつなぎあわせるほどでなく、わずかに長さが不足する程度であれば、ガムテープで橋渡しをして固定することもできます（写真-4）。

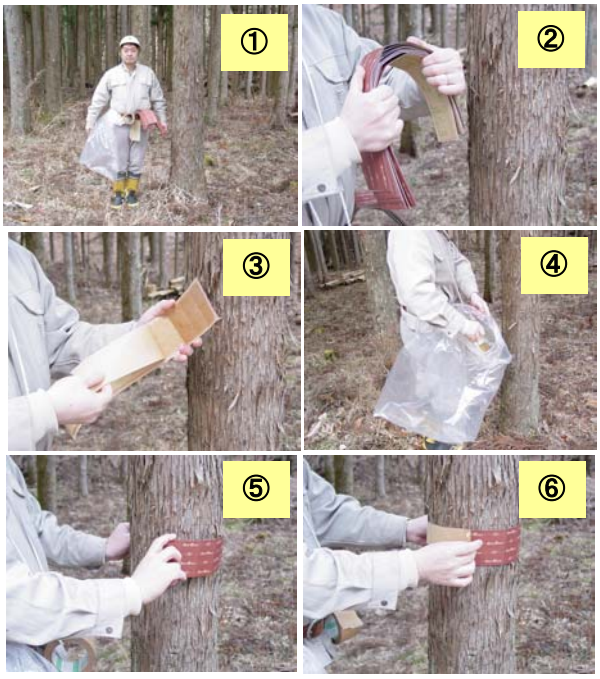

写真-1　バンドを巻く作業の流れ
①バンド、ゴミ袋、固定用のクリップもしくはガムテープを準備する。②バンドに折れ目を入れる。③④剥離紙をはがし、剥離紙はゴミ袋にすてる。⑤粘着剤の面を内側にし、折り目部分で樹皮との間に適度な隙間ができるように、胸高部の樹幹に巻く。⑥粘着面で重ねあわせ、付属のクリップもしくはガムテープで固定する。

写真-2　バンドの良い巻き方と悪い巻き方
左はカミキリの入りやすい適度な隙間があるのに対し、右は無い。

写真-3 付属のクリップでとめた様子

写真-4 ガムテープでとめた様子

（担当　森林資源部　主任専門研究員　高橋健太郎）

連絡先　028-3623　岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第３地割560番地11　岩手県林業技術センター　ホームページアドレス　http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/
ＴＥＬ　019-697-1536
ＦＡＸ　019-697-1410